

---

## 病院で必要な情報とは

(木村拓郎：災害時のヘルスプロモーション、東京、荘道社、2010、29-39)

2014年7月18日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

まず、災害時の病院の役割はあくまでも医療業務の継続である。そのためには、災害発生直後速やかに病院内の被害を調査し、被害があれば復旧のための措置を早期に講じる2点が重要となる。

病院内の被害は入院患者や職員などの人的被害と、建物や設備・機器類の被害に大別される。また、当然だが火災が発生した際は速やかに消火活動を行う。機能の早期復旧では、散乱した機器類の片付けをはじめとして、建物の被災時には余震などの二次災害への備えや専門家による建物の応急危険度判定も必要である。また、今後病院の機能を維持するために必要な自家発電装置のチェックや災害時無線電話の通話状態なども確認する。また、医療業務を継続するにあたって、予想される多くの負傷者を受け入れる体制を整える必要がある。重症患者のためのベッド確保、そのための容態安定者の一時退院・転院、駐車場や待合室を利用して受け入れやトリアージの為にスペースを確保することが必要となる。

続いて、災害時に病院の役割を果たすべく病院機能を維持するためには、適切な情報のやり取りが必要になる。第一に院外から情報の収集、次に病院内での情報の共有化、最後に外部に対する情報の伝達の3つの情報活動が重要であり、以下に詳しく述べていく。

情報の収集では、収集しなければならない情報の種類とそのための手段が重要となる。

情報の種類だが、まず病院内にいる患者や職員の安全に関わる情報が最も大切で、これには気象庁が発表する気象や地震関係の情報(予報・警報・速報など)、市町村から発表される避難に関する情報(避難勧告や警戒区域など)といった物がある。また、医療体制の方針を決めるため気象庁や自治体が発表する災害の種類・規模、ライフライン被害の情報を入手する必要がある。最後に、災害による被害に対して病院がどの程度対応できるかを判断するため、病院内の被害程度の情報を把握しておきたい。

収集手段だが、前述したように災害に関する情報は複数の機関で集約され、様々な手段で発信されるため、現段階では情報の収集は複数の方法を用いるほかないと言える。気象庁発表の情報はテレビ・ラジオや気象庁のホームページから入手する事ができ、また災害発生メカニズムや地域の被害の概要はマスコミの報道が早いことから、これらは積極的に活用すべきといえる。また被災地となった自治体は災害対策本部を設置することになっており、この本部には警察や消防をはじめとして防災関係機関のスタッフが常駐することから各機関が所有する最新の被害情報が集まる事になるので、本部と連絡を取ることで

地域の被害の全容をほぼ把握することができる。本部からの情報収集の方法は病院側から職員を派遣することが望ましく、このとき病院側の情報も提供することが望ましい。

これらの他、ローカルで貴重な情報は病院に来る救急隊員や負傷者に付き添ってきた住人から得られることが多く、これらの情報を活用して周辺地域の被害の詳細な全容を推測することも必要である。

情報の共有化について、災害時に病院全体で統制が取れた効率の良い活動を行うことは必ず重要となってくるが、そのために病院内外の情報を集約し分析する中核的な部署の設置が不可欠であり、この役割を担うのが災害対策本部である。

本部の活動は情報の収集・整理などの他、職員の招集・病院の安全確認・患者の受け入れや移動の体制作り・マスコミからの取材や各種の問い合わせといった対応など多岐に渡るため、事前に対応や責任者を定めておく事が重要である。

本部の情報や決定事項を周知するための広報手段も重要で、音声での院内放送だけではなく、文字による広報紙の張り出しや配布も行いたい。位置関係とともに情報を確認できるように、時間ごとの情報を記載した地図なども提供できるとより望ましい。

情報の伝達について、災害時に病院としての機能を継続的に維持するため、また医療活動に関する情報を伝達するために外部機関に対して種々の要請を行うこととなるが、これらは人命にかかわる、つまり緊急性を要するものが多いため、病院としては発災直後から通信手段の確保に努めたい。

通信手段としてまず考えるのは電話であると思われるが、災害時には通信量が跳ね上がるため通話規制が実施されることが多く、一般の電話は固定電話・携帯電話を問わず繋がりにくい・全く繋がらない状況が予想される。ではこのような状況で病院からどのように通信していけば良いのか？

まず覚えておきたいのは災害時有線電話の存在である。災害時でも目的の施設に繋がりやすいこの電話は非常に有効だが、過去の災害では存在自体を忘れられていたり気付かれなかったケースがあるため、シールなどを必ず貼っておいて分かるようにしておきたい。次に、防災無線は電話途絶時に極めて有効な通信手段であるので、訓練などで操作に慣れしておきたい。他には「102」番でかけられる NTT の非常・緊急通信や、固定電話よりは繋がりやすい公衆電話があれば位置を把握しておきたい。なお、音声通話は不可能な状況でもメールは使用可能なことが多く、災害時には大いに活用できるツールである。

このように一般的な電話が使用不可能でも使えるような通信手段は色々と存在するが、災害時には不測の事態でこれらの手段が使えないことも予想されるため、一種だけではなく数種類のツールを整えておきたい。